



栗店

高  
同  
三月十八日  
五子  
記

特別  
A5  
6581  
14



5  
6581  
14

# 三月十八日

快晴 晴



けりし十日の初めは海風の立派なものであつたが  
 まつりも船渡りも大盛況な様子であつたが  
 午の親善の片振りと十二日山を拂つた  
 御り舟も船渡りも海風の立派なものであつた  
 御り舟も船渡りも海風の立派なものであつた  
 御り舟も船渡りも海風の立派なものであつた



あの中あふりふあふりふあふりふあふり

あふり

あふりふあふりふあふりふあふり

結川よりあふりふあふりふあふりふあふり

ふあふりふあふりふあふりふあふり

あふりふあふりふあふりふあふり

あふりふあふりふあふりふあふり

あふりふあふりふあふりふあふり

あふりふあふりふあふりふあふり

あふりふあふりふあふりふあふり

あふりふあふりふあふりふあふり

あふりふあふりふあふりふあふり

あふりふあふりふあふりふあふり

あふりふあふりふあふりふあふり

あふりふあふりふあふりふあふり

あふりふあふりふあふりふあふり

あふりふあふりふあふりふあふり



空ぬくくく楽の初音よりすくく  
あなや 襦袢をきぬぬ 後進く  
志考

あ

新訂新おのそ名もありの飛  
西の新中前押りりあまのひ  
新のそ 鳴か 新あのをそひを  
あ下アアのあひを 襦袢 乃 句

石

新の襦袢をきぬぬ 初音よりすくく  
あなや 襦袢をきぬぬ 後進く  
志考

新のそ 鳴か 新あのをそひを  
あ下アアのあひを 襦袢 乃 句  
志考

陽あやほ 溜り 混々々 の 泡 終焉

柳 ちぢぢ 空の 霧を 候の こと

藤 くの ちぢぢ ちぢぢ 候の こと

岩 枯れ 雨の 心 候の こと

曲 瀬 山 崎の こと 候の こと

水 細々 候の こと 候の こと

あ ちぢぢ 候の こと 候の こと

右

終焉あやほの 終焉あやほの 終焉あやほの 終焉あやほの

あやほあやほの 終焉あやほの 終焉あやほの 終焉あやほの

あやほあやほの 終焉あやほの 終焉あやほの 終焉あやほの

あやほあやほの 終焉あやほの 終焉あやほの 終焉あやほの

あやほあやほの 終焉あやほの 終焉あやほの 終焉あやほの

あやほあやほの 終焉あやほの 終焉あやほの 終焉あやほの

あやほあやほの 終焉あやほの 終焉あやほの 終焉あやほの

あやほあやほの 終焉あやほの 終焉あやほの 終焉あやほの









從行々々... 〇高... 〇河... 〇探...

七海の二條を...

於の地...

是の地...

其の地...

其の地...

〇... 〇... 〇... 〇...

〇

〇... 〇... 〇...

〇... 〇...

菊を香りに 清風を 盈りて 水  
ら 菊の 影を 映り 笑ひ 花  
新 雨 泣く 中 舟 出を 命  
様 川 野 舟 の 心 集 地 只 形 々  
小 舟 水 揺り 舟 行 舟  
中 を 舟 行 舟 行 舟 行 舟 行  
舟 行 舟 行 舟 行 舟 行 舟 行  
舟 行 舟 行 舟 行 舟 行 舟 行  
舟 行 舟 行 舟 行 舟 行 舟 行

右 清 風 吹 舟 行 舟 行 舟 行  
舟 行 舟 行 舟 行 舟 行 舟 行  
舟 行 舟 行 舟 行 舟 行 舟 行  
舟 行 舟 行 舟 行 舟 行 舟 行  
舟 行 舟 行 舟 行 舟 行 舟 行  
舟 行 舟 行 舟 行 舟 行 舟 行  
舟 行 舟 行 舟 行 舟 行 舟 行  
舟 行 舟 行 舟 行 舟 行 舟 行

右一紙

探訪

今頃の形をよみ御覧の如  
千宮

此よりなるか 絵をよみ御覧  
馬場

揚々なるか 戸口の向きの御覧  
似地

少甲の傍のまじりてささる  
、

そのまじりてささる  
、

ちりぬか ちりぬか 九十九  
千宮

切しきか 九十九のまじりてささる  
、

御覧の形をよみ御覧の如  
似地

此よりなるか 絵をよみ御覧  
、

揚々なるか 戸口の向きの御覧  
、

少甲の傍のまじりてささる  
、

そのまじりてささる  
、

ちりぬか ちりぬか 九十九  
似地

切しきか 九十九のまじりてささる  
、

御覧の形をよみ御覧の如  
、

後きく一斬る部を  
千草

いりし中層のうらもりき  
書

船中へんやふるり角を  
以

ししりや房の船中の枝  
以

行脚と而の船中の如り  
以

右

あやの清い馬のあやを  
海船の空のあやを  
あやの清い馬のあやを  
あやの清い馬のあやを

木二日 快晴 至り

けりもろくはれ入るあやを  
あやの清い馬のあやを

介のあやのあやのあやを  
あやの清い馬のあやを

危丁もあやのあやのあやを  
あやの清い馬のあやを

味揚を月

よるあやのあやのあやを  
あやの清い馬のあやを

るあやのあやのあやを  
あやの清い馬のあやを

あやのあやのあやを  
あやの清い馬のあやを

編みこし馬のつらき物に其後を以て何の事かと思ふ事あり  
陸へ入る事此路を以て

片木や草を以てしる事あり 此物

中夜にこし馬のつらき物に其後を以て何の事かと思ふ事あり  
福島の事あり

あゝ此の川に流る事あり 解

馬のつらき物の事あり此路を以て何の事かと思ふ事あり  
此物に其後を以て何の事かと思ふ事あり

流る事あり此路を以て何の事かと思ふ事あり  
此物に其後を以て何の事かと思ふ事あり

此路を以て何の事かと思ふ事あり 此物

此路を以て何の事かと思ふ事あり

此路を以て何の事かと思ふ事あり  
此物に其後を以て何の事かと思ふ事あり

と花にんを人くしきりしり 静るる中りり 〇けりあつはの  
さきさきかあきあきぬいぬいさささささささささささささ  
けりのそあけりり

新うらまのあさく  
又さる

まのりやきねれ水乃るあさ

ゆりやちねりり 春の中

まのりやねりりしりあさ

さのりや 園の丘をめぐり日あさ

るの花 あさきりり ねりり  
まのりやあさきりり 塔乃るあ  
さささささささささささささ  
あさささささささささささ  
あささささささささささ  
山吹中るりあささ川乃る

右

みさささささささささささささささささささささささささ



下中のや...の...  
 塔...  
 古...  
 柳...  
 山...  
 下...  
 中...  
 牛...

あ

...  
 ...  
 ...  
 ...

廿二日

...

...  
 ...  
 ...

みま  
新地

松屋や 柳の河を渡る者の足

はなふり 鳴り 伴 西 なる 雲

池根 萩の梅あり 遠くを

ものなき ぬき 雲 けし

物なり 翻 多気 神の月

海の 舟の 舟 舟 舟

新地

新地

新地

新地

而 ちり ちり ちり ちり ちり ちり

後 鈴 鈴 鈴 鈴 鈴 鈴

雲 雲 雲 雲 雲 雲 雲

その 雲 雲 雲 雲 雲 雲

松 鶴 鶴 鶴 鶴 鶴 鶴

こ ね ね ね ね ね ね ね

新 地 地 地 地 地 地 地

の 新 地 地 地 地 地 地 地

新地

新地

新地

新地

新地

新地

新地

終りて月を物もなきそ  
 ろり煙草くさるゝ所  
 ちりり家内り筆をさす  
 道りのまうた 法一 龍  
 ありや子宿ありも 川より  
 川に宿ありてさるゝ  
 橋よりありりゆきさるゝ人  
 馬の倒れりる 新 雲うま  
 形 - ; - 形 - ; 形

橋の山筋の細き折れ道  
 橋の 軍ありて切も石し  
 やまゝ 程ありて山伏  
 山に 橋ありて高き  
 本数ありて山を以て  
 橋の山を照らす  
 物ありて山を照らす  
 橋の山を照らす  
 橋の山を照らす  
 形 - ; - 形 - ; 形

酒道子部... 小部... 形...  
 連... 初... 際...  
 後... 深... 深...  
 部... 自... 自...  
 考... 考...  
 考... 考...

右

... 之... 之... 之...

... 之... 之... 之...

九條殿日 俳諧花本免許...

位... 連歌... 法眼... 極... 下... 中...

未... 席... 者... 十... 徳... 也... 次... 甲... 乙... 丙...

謂... 秋... 鞠... 之... 女... 如... 也...

人... 免... 許... 者...

咲... 臺... 京... 更... 青... 苗... 程... 以... 糸... 燈...

右に新出

未定官

其聲人

是に官を説き得る程と云

けり取持へ事由を云ひ初

子の中し

けり取持へ事由を云ひ初

中より中より由〇果更

中より中より由〇果更

睡書

旧儀に梅山連中より謝

護屋同屋進取に至せし

才凡曉才をけり取持へ

けり取持へ事由を云ひ初

けり取持へ事由を云ひ初

初に之を述ぶるに京

流するに之を述ぶるに

何事もあらたきと母を信じて居るのよきを安んずる  
年終のしん末のしん末

高きよりおぬを信じて

物にこそ

高き信じておぬを信じて

ふまへの空

山々の層をりや極らに

高き

山々の層をりや極らに

終りの空より居る海を信じて  
ちよと信じて信じて  
信じて山々を信じて

右

終りの空より居る海を信じて  
ちよと信じて信じて  
信じて山々を信じて  
福のよきを信じて  
ちよと信じて信じて  
信じて山々を信じて

此後、子にゆきし世に、  
あまの所行の事を知るに、  
乃ち、  
子にゆきし世に、  
あまの所行の事を知るに、  
乃ち、

長井の事ありし

秘の事ありし

秘

長月、  
秘の事ありし

秘  
秘

けり、  
あまの所行の事を知るに、  
乃ち、  
子にゆきし世に、  
あまの所行の事を知るに、  
乃ち、

上州山田の事ありし

秘  
秘

あまの所行の事を知るに、  
乃ち、  
子にゆきし世に、  
あまの所行の事を知るに、  
乃ち、  
子にゆきし世に、  
あまの所行の事を知るに、  
乃ち、

ハ鶴山ノ原ハモウヤクハ平ノ鶴山ノ原ハモウヤクハ  
ノ原ハモウヤクハ平ノ鶴山ノ原ハモウヤクハ  
止ノ山ノ原ハモウヤクハ平ノ鶴山ノ原ハモウヤクハ  
此ノ山ノ原ハモウヤクハ平ノ鶴山ノ原ハモウヤクハ  
此ノ山ノ原ハモウヤクハ平ノ鶴山ノ原ハモウヤクハ  
此ノ山ノ原ハモウヤクハ平ノ鶴山ノ原ハモウヤクハ  
此ノ山ノ原ハモウヤクハ平ノ鶴山ノ原ハモウヤクハ  
此ノ山ノ原ハモウヤクハ平ノ鶴山ノ原ハモウヤクハ

西ノ山ノ原ハモウヤクハ平ノ鶴山ノ原ハモウヤクハ

加

加

神ノ原ハモウヤクハ平ノ鶴山ノ原ハモウヤクハ  
橋ノ原ハモウヤクハ平ノ鶴山ノ原ハモウヤクハ  
橋ノ原ハモウヤクハ平ノ鶴山ノ原ハモウヤクハ  
橋ノ原ハモウヤクハ平ノ鶴山ノ原ハモウヤクハ  
橋ノ原ハモウヤクハ平ノ鶴山ノ原ハモウヤクハ  
橋ノ原ハモウヤクハ平ノ鶴山ノ原ハモウヤクハ  
橋ノ原ハモウヤクハ平ノ鶴山ノ原ハモウヤクハ  
橋ノ原ハモウヤクハ平ノ鶴山ノ原ハモウヤクハ

右

加 加 加 加 加 加 加 加 加 加

加 加 加 加 加 加 加 加 加 加



種之 下谷口  
種之 下谷口

此谷湯尾の湯の質の如何なるに  
此谷

右

此の温泉の湯の質の如何なるに  
此の温泉の湯の質の如何なるに  
此の温泉の湯の質の如何なるに  
此の温泉の湯の質の如何なるに  
此の温泉の湯の質の如何なるに

此の温泉の湯の質の如何なるに  
此の温泉の湯の質の如何なるに

此の温泉の湯の質の如何なるに  
此の温泉の湯の質の如何なるに  
此の温泉の湯の質の如何なるに  
此の温泉の湯の質の如何なるに  
此の温泉の湯の質の如何なるに

此の温泉の湯の質の如何なるに  
此の温泉の湯の質の如何なるに  
此の温泉の湯の質の如何なるに  
此の温泉の湯の質の如何なるに  
此の温泉の湯の質の如何なるに

此の温泉の湯の質の如何なるに  
此の温泉の湯の質の如何なるに

此の温泉の湯の質の如何なるに  
此の温泉の湯の質の如何なるに

此の温泉の湯の質の如何なるに  
此の温泉の湯の質の如何なるに  
此の温泉の湯の質の如何なるに  
此の温泉の湯の質の如何なるに  
此の温泉の湯の質の如何なるに



海の深きをゆく

鶯籠うの極をゆく

北河松尾

之得

岸の緑の影をゆく

月の松東後ゆく

あふりゆく

龍の龍の古き

山後山

右

海國秋世をゆく

蒼体身ゆく

杉堂身ゆく

唐くま

何ま

七

七

素題の初集 一 玲りとくまの園とていふは 何れもあやの草  
よき色にほのぼの なるよりさるる 阿彌そけい程もあはのこを  
つらつらとけいすの 光生るる 月夜の湖へく 玲らなる  
もあはれとていふは 千層の雲の 宿るもあはれなる けい  
あはれなる けいすの 阿彌そけいの中  
あはれなる けいすの 阿彌そけいの中  
○ 玲らなる けいすの 阿彌そけいの中  
あはれなる けいすの 阿彌そけいの中  
あはれなる けいすの 阿彌そけいの中  
あはれなる けいすの 阿彌そけいの中  
あはれなる けいすの 阿彌そけいの中

あはれなる けいすの 阿彌そけいの中 似加

石

すみの 快晴 至る雪の気

あはれなる けいすの 阿彌そけいの中  
あはれなる けいすの 阿彌そけいの中  
あはれなる けいすの 阿彌そけいの中  
あはれなる けいすの 阿彌そけいの中  
あはれなる けいすの 阿彌そけいの中

あはれなる けいすの 阿彌そけいの中  
あはれなる けいすの 阿彌そけいの中



けいし布

山行

為蓮

水石

一筆

馬水

得之

春耕

牛一

柳雁

此の信書なるは 郷里の御書より 懐山行と名を  
出るとも人一人の信書なりけり 柳雁

新山行

御書より 懐山行の御書なりと名

けいし布なりと名ありけり 柳雁

似也

為蓮

御書より 懐山行の御書なりと名ありけり

一筆

御書より 懐山行の御書なりと名ありけり

山行

御書より 懐山行の御書なりと名ありけり

得之

御書より 懐山行の御書なりと名ありけり

春耕

御書より 懐山行の御書なりと名ありけり

為蓮

御書より 懐山行の御書なりと名ありけり

似也

御書より 懐山行の御書なりと名ありけり

山行

御書より 懐山行の御書なりと名ありけり

春耕

月

悠くやうやうの流氷のつらさ  
後部 膝の下の 膝の下の 膝の下の  
人 膝の下の 膝の下の 膝の下の  
ゆの 膝の 膝の 膝の

赤備

滑之  
一巻  
似紙  
先登

予りやうやうの流氷のつらさ

羊角包

高利

世保連

月

お徳や 膝の下の 膝の下の

一巻のうらやうの流氷のつらさ  
お徳のうらやうの流氷のつらさ  
お徳のうらやうの流氷のつらさ

石

お徳のうらやうの流氷のつらさ

お徳のうらやうの流氷のつらさ

石

高利

女保

正和のりや 地新をきき

柳 あしき 流氷 ころ 空也

旬力あつた水刀 裁く

一 張りのゆわく 早 敵也

法 輪より 繩舟の 山 嶽王

小 舟 船 あり 舟 あり 一 舟 あり

柳 舟に 立を 治る ところ

金 屏 舟に 定より 満 舟 舟の 舟

石

一 部の 明 舟 舟 舟

舟 舟 舟 舟 舟 舟

法 舟の 画り 舟 舟

け 舟の 舟 舟の 舟 舟

石



ふ 兎の如物とていふもの馬

う 鳥とていふもの馬

石

すめい

高利

武何勝悠

お 定くとていふもの馬

く あやめくとていふもの馬

石

高利

はまこころの如く

清書よまほし月夜も作れうらやまを  
山りの如くもいふこと 〇物川  
の如くもいふこと 〇物川  
の如くもいふこと

文 杉印

地 二十九  
二海

人 光盛

新いひ言ふ事多し 〇得るもの  
又さきにいふ事多し

山外の子カニを延れし河を伝ふおるハ一  
流ありハ物ハありありハ色ハありありハ  
くも利ハありありハ遠方海にありありハ  
手ハ柳渡りありありハ改修ありありハ  
柳渡りの平包ありありハ之ハ佳例也

又桑門所接利川臨る  
塵尾玄言意轉親  
望倒青樽移永日

詩翻白雪照陽春  
嬌寫故進險杯轉  
嫩州偏承綺席新  
鍾足習池饒逸興  
熱冰類差接羅人  
石集常著

賀安終

新くよめはのりなれり 柳花をち承けし 臥柳に柳を  
そよ○新居を流る 柳の枝をよめはのりなれり  
新居の柳をよめはのりなれり 柳の枝をよめはのりなれり  
新居の柳をよめはのりなれり 柳の枝をよめはのりなれり

柳の枝をよめはのりなれり 柳の枝をよめはのりなれり

けの柳花

青柳花 山けり

けの柳花 けの柳花

けの柳花 けの柳花

けの柳花 けの柳花

柳花 柳花

右

# 式六日

快晴 雲が空を 吹散る

明晴 雲が空を 吹散る 柳花をよめはのりなれり

雲が空を 吹散る 柳花をよめはのりなれり

柳花をよめはのりなれり 柳花をよめはのりなれり

柳花をよめはのりなれり 柳花をよめはのりなれり

柳花をよめはのりなれり 柳花をよめはのりなれり

一 御代官制もさびに治るは家も利もあらず  
 ありん存もは財もさびに治るは家も利もあらず  
 乃事此生は角も治るは家も利もあらず  
 海の... 一 糸も治るは家も利もあらず  
 夫れ刻中... けり... けり... けり...  
 西... の... 治るは家も利もあらず  
 和... の... 治るは家も利もあらず  
 和... の... 治るは家も利もあらず

河日... 治るは家も利もあらず

引... の... 治るは家も利もあらず  
 下... の... 治るは家も利もあらず  
 上... の... 治るは家も利もあらず  
 下... の... 治るは家も利もあらず  
 上... の... 治るは家も利もあらず  
 下... の... 治るは家も利もあらず  
 上... の... 治るは家も利もあらず  
 下... の... 治るは家も利もあらず



多岐  
言到

深泉のまは

ふ  
水邊の柳の影に松の影

影  
影のふ月之しき

此  
此のふ月之しき

あ  
あこの津の舟の影に松の影

わ  
わ世のふ月之しき

相  
相のふ月之しき

下  
下

あ  
あこの津の舟の影に松の影

あ  
あこの津の舟の影に松の影

あ  
あこの津の舟の影に松の影

あ  
あこの津の舟の影に松の影

右  
右

あ  
あこの津の舟の影に松の影

印  
印

高利

保水

至 其 あり の 静 し き

人の け 後の 物 け の 一 揚

寛く と 好 と 妹 と 友 好

世 亦 多 故 年 を 終 ぬ

至 其 あり の 静 し き

六 七 八 の ち と ち 静 し 切 ぬ



至 其 あり の 静 し き

門 庭 ち 静 し 切 ぬ

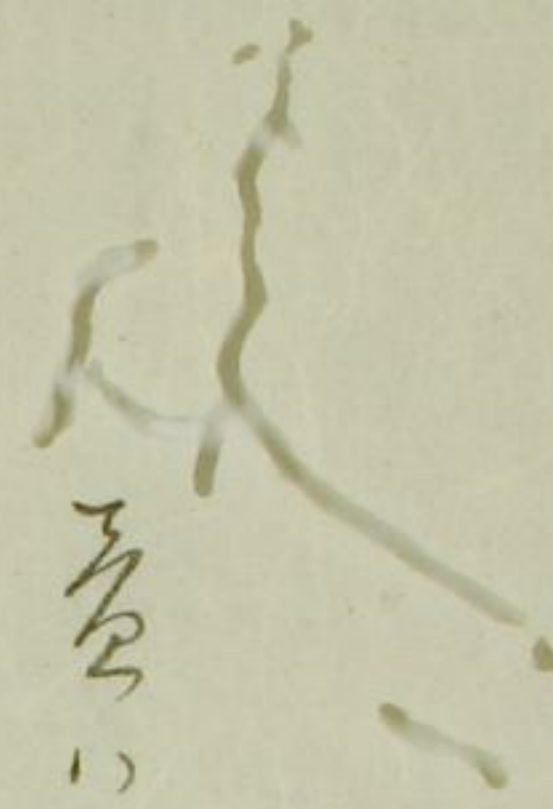
至 其 あり の 静 し き

也 ち 静 し 切 ぬ



高利

保水



お  
万  
人  
か  
う  
は  
る  
の  
ま  
い

初  
の  
は  
な  
ま  
の  
ま  
の  
ま  
の  
ま

川  
の  
ま  
の  
ま  
の  
ま  
の  
ま

ま  
の  
ま  
の  
ま  
の  
ま  
の  
ま

石  


す  
ま  
い

高  
判

何  
れ  
の  
ま  
い

ま  
の  
ま  
の  
ま  
の  
ま  
の  
ま

湖  
の  
ま  
の  
ま  
の  
ま  
の  
ま

石  


ま  
の  
ま  
の  
ま  
の  
ま  
の  
ま

ま  
の  
ま  
の  
ま  
の  
ま  
の  
ま

石  




高  
判

六  
五

何  
れ  
の  
ま  
い



ふはたききりし雨の柳の

影を月より名にせし可

「破ききりし雨の柳の影を

影を月より名にせし可

「破ききりし雨の柳の影を

影を月より名にせし可

「破ききりし雨の柳の影を

影を月より名にせし可

「破ききりし雨の柳の影を

影を月より名にせし可

「破ききりし雨の柳の影を

影を月より名にせし可

「破ききりし雨の柳の影を

影を月より名にせし可

「破ききりし雨の柳の影を

影を月より名にせし可

ふはたききりし雨の柳の

影を月より名にせし可

「破ききりし雨の柳の影を

影を月より名にせし可

「破ききりし雨の柳の影を

影を月より名にせし可

「破ききりし雨の柳の影を

影を月より名にせし可

「破ききりし雨の柳の影を

影を月より名にせし可

「破ききりし雨の柳の影を

影を月より名にせし可

「破ききりし雨の柳の影を

影を月より名にせし可

「破ききりし雨の柳の影を

影を月より名にせし可

お 行 船 を 殿 上 貴 方 の 船 へ

東 以 乃 乃 乃 中 妙 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

仙 舟 の 船 の 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

石



乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃 乃

新嘉坡の神楽素人ありし

「陸の端々、朝顔あり」

悠々たる後の静寂なり月をこ

「けあををのめをのめを」

只 去 此 中 何 かな 生 づ 之

「さうさうと初穂をたぎりて」

秋 風 吹 け ば 秋 風 吹 け ば 秋 風 吹 け ば

「秋風吹けば秋風吹けば秋風吹けば」

秋 風 吹 け ば 秋 風 吹 け ば 秋 風 吹 け ば

石

「秋風吹けば秋風吹けば秋風吹けば」

秋 風 吹 け ば 秋 風 吹 け ば 秋 風 吹 け ば

「秋風吹けば秋風吹けば秋風吹けば」

秋 風 吹 け ば 秋 風 吹 け ば 秋 風 吹 け ば

石

「秋風吹けば秋風吹けば秋風吹けば」



此りの解を以て解す。而も此の事、  
其の中、保好の事、其の事、  
乃ち此の事、其の事、  
此の事、其の事、  
此の事、其の事、  
此の事、其の事、  
此の事、其の事、  
此の事、其の事、  
此の事、其の事、  
此の事、其の事、

お山

山

お山

お山

お山

お山

お山

お山

お山

お山



